

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）11月14日（火）掲載

町の名変えた朝霞移転 皇族の朝香宮にちなみ

東京ゴルフ倶楽部委員会、決議ニ依リ、
 名誉会長 朝香宮殿下、御許ヲ得左記ノ通り改称可然
 朝霞
 右及同各住也
 昭和七年紀元節日
 東京ゴルフ倶楽部
 キヤッパ子爵井上巨四郎
 埼玉縣北足立郡
 榑折村長飯倉晋三郎殿

東京ゴルフ倶楽部が、1932年に現在の朝霞市に贈った通知（のちに市文化財に指定）。皇族だった朝香宮が、榑折村から「朝霞町」への改称を許可したとする内容が記されている



東京の地価高騰で、駒沢からの移転を決めた東京ゴルフ倶楽部。1929（昭和4）年、現在の朝霞市に新天地を求めた。

当時は、「埼玉縣北足立郡榑折村」という名だった。川越街道の宿場町「榑折」の名は、室町時代の逸話にさかのぼる。追っ手から逃れてきた武将の馬が、ここで膝を折って息絶えたことに由来するという。

通知は文化財に

そんな榑折村に、国内最高峰のゴルフ場がやって来る――。同時期に村から町

になることも決まっていた。榑折村では、この機に名前を変えることとなった。

東京ゴルフ倶楽部は「プロジェクト」(のちに名誉総裁に呼称変更)に皇族の朝香宮鳩彦王を迎えていた。朝香宮家が戦後に皇籍離脱するまで暮らした自宅が現存している。アール・デコ様式の代表建築といわれる現在の東京都庭園美術館(港区白金台)である。

この皇族のゴルフ場が移転してくるということで、「あさか町」に。漢字まで同じにするのは恐れ多いと、「朝霞町」となった。

朝霞市博物館に、賞状ほどの大きさの文書が保管されている。朝香宮から「朝霞」に改称して構わないとの許しを得た、という内容の東京ゴルフ倶楽部からの通知だ。これは、朝霞市の指定文化財となっている。

贅の限り尽くし

東京ゴルフ倶楽部のコースには、贅の限りが尽くさ

れていた。現存していたら世界的な名コースに挙げられるのではないかと語るゴルフ関係者も少なくない。

2021年の東京五輪でのゴルフ競技会場となった「霞ヶ関カントリー倶楽部」(川越市)は、東京ゴルフ倶楽部とともに国内最高峰に数えられる。

その西コースは、東京ゴルフ倶楽部の朝霞コースと同じ1932(昭和7)年に開場した。西コースの建設予算は10万円余。単純比較はできないが、東京ゴルフ倶楽部の朝霞コースは造成だけで33万円。さらにクラブハウスに24万円、土地買収費に103万円の巨費が投じられた。

特に手をかけたのが芝だ。冬枯れる日本芝ではなく、真冬も青々と茂る寒地型の西洋芝を採用した朝霞コースは、人口3万人のまちと同規模の水道設備を必要としたという。数奇な運命をたどるこの芝は、90年たついまも生き残っている。(抜井規泰)

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）11月21日（火）掲載



東京ベントは、東京ゴルフ倶楽部の芝のテスト場にもわずかに残っている。グリーンを斜めに横切るライン下側の色がやや濃い部分だ

東京ゴルフ倶楽部
110年

8

美しさ管理の難しさ格別

流転の芝「東京ベント」

高麗芝などの日本芝は、冬には枯れたように茶色くなる。一方、寒冷地型の西洋芝は常緑で、真冬でも青

々としている。朝霞に移転した東京ゴルフ倶楽部は、これまでになくゴルフ場を（ベント芝）を採用した。ベント芝はその美しさに加え、葉が柔らかく、グリーンでの球の転がりの良さは日本芝の比ではない。だが寒さには強いが暑さと湿気に弱い。管理が難しく、夏に毎日のように水をまき、芝の通風・排水を良くする。本州以南の多くのゴルフ場がグリーンだけベント芝を使い、他は日本芝なのは管理の難しさゆえだ。ベント芝を、朝霞コースではグリーンだけでなくフェアウエイにも用いた。美しさは格別だったそうだ。この芝のルーツは、朝霞への移転前だった1919（大正8）年にさかのぼる。

三菱財閥の岩崎小弥太が英国から持ち帰った種を倶楽部に寄贈。これを、高麗芝で覆われた駒沢のコースのあちこちにまいた。

相馬孟胤が発見

10年後。東京帝国大学（現東大）植物学科卒で、相馬中村藩主直系の子爵・相馬孟胤が、コースの片隅で冬になっても茂っている芝を見つけた。これが、日本初のベント芝「東京ベント」（相馬ベント）だ。駒沢から移転した朝霞コースに、この芝が採用された。だが、日本の暑さにはかなわず、やがてフェアウエイは高麗芝に。そして40（昭和15）年、陸軍から売却を迫られた朝霞コースは閉場。現在の狭山市に移転する。東京ベントは狭山の一部に移植されたが、環境が合わなかったらしい。敗戦後、進駐軍による接収が解除されてから、7番ホール周辺に生き残っているのが再発見された。こう

して東京ベントは復活。グリーンの芝に採用され、プロ、アマあまたの名勝負の舞台となった。だが、猛暑と渇水で「四国の水がめ」と呼ばれる早明浦ダム（高知県）が干上がった94年。芝は壊滅的な打撃を受け、2年後の全面張り替えで姿を消した。

育ての親の地に

はぎ取った芝は宮城県内のゴルフ場に移植された。だが、そのゴルフ場は東日本大震災の影響で閉鎖に追い込まれた。芝だけは「育ての親」である相馬孟胤ゆかりの福島県南相馬市の「鹿島カントリー倶楽部」に移され、小さな養生地で余生を送っている。北海道の牧場にも移植された。経営母体が変わり、経緯を知る職員はなく、記録も残っていない。ただ、牧場の一角に葉や茎の質が明らかに異なる芝が、いまも生い茂っているという。（抜井規泰）

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）11月28日（火）掲載



朝霞を日本有数の地に

こだわり抜いた新天地

霞に移転した。約66万平方
に、朝霞をしい野心を起
すという広大な新天地だっ
た。 駒沢時代の19
22（大正11）年4月の

地価高騰のあおりを受け
た東京ゴルフ倶楽部は、朝

新コースについて大谷光
明がこう書き残している。 英皇太子チームとマッチプ
レーを戦ったのが大谷だ。



駒沢コースでゴルフを楽しむ井上準之助（左）。この1年後に暗殺された。右は住友の前総理事（当時）の湯川寛吉。1931年1月11日、朝日新聞社蔵

買収地は広く、起伏がな
く、四角く、ゴルフ場の設
計は容易だ。だが、「とい
うことは、同時にまたへた
ものが設計するならば、平凡な
ものしかできないことを意
味する」と大谷は記した。

倶楽部（兵庫）、霞ヶ関カン
ツリー倶楽部（埼玉）、茨
木カンツリー倶楽部東コー
ス（大阪）……。いずれ
も、ゴルフアール憧れの名門
だ。 アリソン設計の特徴の一
つに、ピンに寄せるころ
か脱出すら難しいバンカー
がある。日本のゴルフアール

完成目前凶弾に

倶楽部の生みの親で、日
銀総裁などを歴任した井上
準之助こそ、コースの完成
を心待ちにしていたはず
だ。しかし、開場3カ月前
の32年2月9日、凶弾に倒
れた。血闘団事件である。

当時のゴルフクラブのシ
ャフトは、ヒッコリーとい
う北米の木材が主流で、現
在と大差ないスチールシャ
フトが登場して間もない時
代だった。凶弾に倒れた翌
日、井上が注文し、心待ち
にしていたスチールシャフ
トのクラブがアメリカから
届いた。それは、棺に納め
られたという。（抜井規泰

名設計家を招く

海外の有名設計家に委ね
られた。招かれたのが、英
国人のチャールズ・ヒュー
・アリソン。この来日でア
リソンは朝霞コース以外
でも設計や改修を手がけて
いる。川奈ホテル富士コー
ス（静岡）、広野ゴルフ倶

はいまも彼を敬愛し、戦前
の名設計家の名を冠した和
製英語を使い続けている。
ゴルフ好きには常識だが、
彼の設計でなくても深いバ
ンカーを日本人はこう呼
ぶ。「アリソンバンカー」
朝霞コースはクラブハウ



青山霊園にある井上準之助の墓。この右、大蔵大臣と
して支えた濱口雄幸・元首相の墓がある。東京都港区

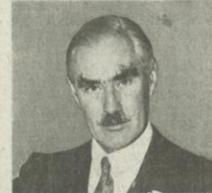
東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）12月5日（火）掲載



ベーブ・ルースもプレー



⑤横浜から列車で東京入りし、大歓迎を受けるベーブ・ルース（半身でこちらを向く右の人物）。中央奥はルー・ゲーリック
＝1934年11月2日、東京駅前
⑥ジョセフ・グラー駐日米国大使＝朝日新聞社蔵

日米開戦前 外交の舞台に



東京ゴルフ倶楽部は、時に外交の舞台にもなった。摂政宮だった昭和天皇と、のちの英国王・エドワード8世（王冠をかけた恋）で退位）とのマッチプレーは、すでに触れた。

交流戦の合間に

戦前、日米の野球選抜チームによる交流戦があった。1934（昭和9）年に来日したが、本塁打王ベーブ・ルースだ。大宮や神宮など全国12都市を転戦し、18試合を開催。11月20日の第10戦、静岡・草薙球場での沢村栄治の好投は、語りへきた。沢村は国内初のプロ野球チーム「大日本東京野球倶楽部」（現・巨人）に入団。「沢村賞」にその名を

残す天才投手は、史上最多3度のノーヒットノーランを記録した。だが、軍隊に3度召集され、44年に戦死。背番号14は、巨人の永久欠番となっている。来日したベーブ・ルースは34年11月6日、チームメイトのフランク・オドール、米国のジョセフ・グラー駐日大使、それに赤星四郎と、東京ゴルフ倶楽部でのラウンドを楽しんでいた。

オドールは巨人軍の「ジャイアンツ」の名付け親で知られる。没後の2002年、日本のプロ野球誕生への貢献で「野球殿堂入り」を果たした。1929年に記録したシーズン254安打は、いまもナ・リーグ記録として輝き続けている。

赤星は伝説的なゴルフファニーで、戦後は女子プロゴルフの振興に力を注いだ。戦前に話を戻そう。

東京ゴルフ倶楽部は、日米戦争を回避する道を探り続ける首相・近衛文麿と、グラーとの接点だった。近衛は首相就任前には会員のトップである「キャプテン」を務めていた。グラーも長年の倶楽部の会員だ。

しかし、日米関係は悪化の一途をたどる。41年春から秋にかけて、戦争回避の交渉が続いた。近衛は、ルースベルト大統領との日米首脳会談を模索。グラーがそれを支援し続けていた。

戦争回避を探る

グラーは日本とアメリカとの戦争回避を模索し続けた親日家で、原爆投下や天皇制廃止に反対し続けた。

しかし、対米戦争は避けられない状況に陥る。近衛内閣は総辞職。53日後、後任の東条英機は日米開戦に踏み切った。（抜井幾彦）

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）12月12日（火）掲載



朝霞時代の3番ホール。巨大な池越えのホールが朝霞コースの名物だった。奥の白い建物がレーモンド設計のクラブハウス＝東京ゴルフ倶楽部提供

陸軍、朝霞コースに触手 「ぜいたくな遊び」目の敵

東京ゴルフ倶楽部
110年



3番ホールの池は、いまもそのまま残っている。この池だけが、かつてここにあった名門ゴルフ場の面影を伝えている＝陸上自衛隊朝霞駐屯地

1937（昭和12）年7月7日。北京郊外での盧溝橋事件から、日本は中国との泥沼の戦争に突入する。

戦費を絞り出すために、大衆の娯楽にも課税が始まった。38年の入場税は、演劇や映画、ゴルフ場などが対象だった。当初10%だった税率は、2年後に最大30%に、大戦末期には同200%と増大し続けた。ゴルフボールは38年に配給も廃止となり、やがて配給も「ぜいたくは敵だ」とのスローガンが生まれたのは40年。42年には「欲しがりません勝つまでは」が日本全土を覆う。特にゴ

周辺をまず買収

ゴルフは「ぜいたくな遊び」として目の敵にされた。陸軍から、東京ゴルフ倶楽部に通知が舞い込んだ。「朝霞コースを売れ」当時の会員トップの「キヤプテン」だった木戸幸一（明治の元勳・木戸孝允の孫）によると、陸軍はまずコース周辺の土地を安く買収し、その金額を根拠に朝霞コースを買いたたこうとした。「ずるい手を使って交渉にやっていた」と木戸は戦後に回想している。木戸は陸軍幹部との折衝を逐一、倶楽部の名誉総裁の朝香宮に報告。朝香宮は陸軍次官の阿南惟幾（のちに陸軍大臣、終戦の日に刺腹自決）と会談を重ねた。極東国際軍事裁判（東京裁判）の証拠物件にもなった「木戸幸一日記」には、難航する陸軍との交渉が描かれている。40年4月27日に、こう記している。

（午前十一時、石本兵務

今は陸自駐屯地

局長、池本「信己」建築課長を同伴。来訪、朝霞ゴルフ場譲渡の件につき協議す。価額の点、容易に折合ず。平沼騏一郎内閣の大臣となった木戸はキヤプテンを退任。後任の下で170万円での売却が決まった。朝霞コースの広大な土地は、陸軍の予科士官学校となった。戦後は進駐軍に接収され、米軍の「キャンブ・ドレイク」に。その後、日本に返還された。朝霞コースの3番ホールは池越えのショートホールで、その美観はコースの誇りだったという。売却から88年。跡地に、かつて「日本一のゴルフ場」とたたえられた名物ホールの池が、いまも残っている。その大きく美しい池は、陸上自衛隊朝霞駐屯地のほぼ中央にあり、いまも満々と水をたたえている。（坂井規泰）

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）12月19日（火）掲載



朝霞閉鎖 狭山でも苦境

長引く戦争 存亡の危機

陸軍から強制的に買収され、朝霞にあった東京ゴルフ倶楽部（GC）は開場からわずか9年で閉鎖された。

東京GCは、朝霞の北西に位置する現在の三芳町への移転を模索した。しかし、農地転用の規制や地元

部の名が残された。大谷は1922（大正11）年に摂政宮（のちの昭和天皇）と英国皇太子が親善ゴルフをした際、昭和天皇とともにプレーした東京GCのメンバーであること

は連載第5回で触れた。北コースを売却 狭山の地で再出発した東京GCは、南北に各18ホールを持つ広大なゴルフ場だった。大谷が設計したのは南コースだ。しかし、時局は悪化し続け、倶楽部は存亡の危機に直面し続けた。

長引く戦争で来場者は激減し、財政事情が悪化。広大なコースを維持できなくなり、大谷が設計した南コースを残して北コースを売却した。その土地は戦中に

北コースを売却

破壊、全国各地で

日本にはいままも、「ゴルフにはいままも、庶民の生活からかけ離れた、ぜいたくな遊び」といったイメージがあるらしい。

ましてや、烈々と戦局が悪化する戦時中である。「ぜいたくは敵だ！」。そんなスローガンのもと、全国各地のゴルフ場が破壊されていった。畑や牧場、飛行機の滑走路や弾薬置き場へと変えられていった。



1940年7月、東京・銀座に掲げられた「ぜいたくは敵だ！」のスローガン

（抜井規泰）